

各校活用に関する前提としての考え方

委員	意見
元倉委員	<p>各小学校への意見の前に、現存する震災復興小学校全体についての意見を述べます。これまでいただいた資料を全て読み直し、また、個人的に他の震災復興小学校の資料を調べてみました。その結果、既に保全による活用を提案しようとしている３校を含め、この３校も保全を原則に活用すべきだと考えました。その理由を以下のように整理しました。</p> <p>■震災復興小学校と同時期の RC 造の小学校（以下復興小学校等）は当初 1 7 0 校あったが現在では 2 8 校しか残っていない。台東区でも 3 4 校あったものが 6 校しかのこっていない。（幸い残っている）</p> <p>■教育史としての重要性とともに、都市計画的な実践において重要であり、建築の近代性、合理性においても歴史的に重要な遺産である。</p> <p>都市計画的には、地域の景観上のシンボルとして、地域活動上のコアとして学校を捉えていたこと、オープンスペース、緑地、避難空間として捉えていたことなど、先見性をもった都市計画の実践の例として重要である。</p> <p>建築的には、標準化による合理性、構造、健康、衛生に対する考え方、人の行動と空間に対する考え方等近代建築のテーゼが実践されている。意匠的にも、当時の同時代の影響を受けた、極めて即物的な表現から、表現主義やゼゼセッションの造形的なものまで、日本の建築のモダニズム化、インターナショナル化の証人と見ることが出来る。</p> <p>■建築、特に小学校はその地域で営まれてきた人の時間（歴史）が澱のように重ねられ刻まれた装置だと考えられる一既に 8 0 年～9 0 年の時間の記録である。これからも書物のように受け継がれていくことが望ましい。記念碑的な建築ではなく地域の庶民が愛した建築として残す価値があると思う。</p> <p>■保全していくためには、将来にむけての新たな価値観を構築しなければならない。施設の外部空間と内部空間が地域を越えて、活用されることについて、もっとグローバルにそして創造的に考えることが必要である。</p> <p>■校庭は都市に埋め込まれた、「開かれた広場」である。</p> <p>建築の外観は記憶の記号として保存されるべきである。建築の内部空間は記憶の記号を含みながら最も今日的な環境と内容を用意（改修）すべきである。（ヨーロッパの古い街から学ぶこと）</p>
	<p>復興小学校の歴史的意義は周知の通り。</p> <p>もともと台東区には 33 の復興小学校が存在したが、現在はわずかに 6 残すのみである。成熟社会にあって、公共施設の重大な不足や、経済状況から強い開発圧力があるわけではない。維持コストを抑えながら、全小学校を現状を活かしながら利活用すべきである。解体を前提とせず、あくまでも「活用における検討課題」を解決することを明確な目的とする。学校は教室、廊下、講堂、運動場が一体となって「学校らしさ」を感じさせる建築である。可能であれば全保存、困難な場合でもできるだけ多くのボリュームを残すことが望ましい。</p> <p>全保存、一部保存、利活用中の小学校の改修にあっても、歴史意匠の継承にあたっては慎重かつ丁寧な検討が望まれる。造詣の深い学識経験者によるフォローアップの体制、すなわち歴史意匠の継承方法の検討、実施にあたってのチェックなどが必要である。事業者及び設計者には、復興小学校の歴史意匠に対する深い理解と、高度な知識と設計技術が求められる。</p>

旧柳北小学校に関する委員意見

委員	意見
越澤委員長	<p>これまでも、その時点での区における最適な活用方法を検討し、フランス人学校や保育室等の暫定活用の用地として活用してきた経緯がある。今後も、隣接する復興小公園の活用とあわせ、将来の行政需要へ対応するための用地として、その時点にあった活用を図ることが望ましい。</p>
吉川副委員長	<p>当該建物及び敷地は、フランス人学校に貸与中に耐震補強が行われたこと、仮校舎として相応の修繕が行われること、隣接公園との密接な関係を持って設計された復興小学校としての様相が今日まで適切に維持され機能していること、立地として敷地高度利用が考えにくいことが特徴である。これらを踏まえると、今後も既存建物を維持しつつ、隣接公園との相乗効果も意識して公共性を発揮する施設として柔軟な利活用を継続することが最適であると思料される。</p>
元倉委員	<p>現在、地域のスポーツ施設、児童施設として使われている。この活動を踏襲しさらにコミュニティ施設として、発展させるのが良いと思う。5 0 年の将来を見越して、歴史的な価値を残しつつ思い切った内部の設え（デザイン）や設備を改修し魅力的な施設にリニューアルすべきである。</p> <p>元々柳北公園からアプローチする学校であったことも踏まえて、公園と校庭がさらに一体化されるような改修を提案したい。例えば職員室当りを外部ピロティにすれば一体化を図ることが出来るだろう。公園の再整備も同時に行ないたい。</p>
山家委員	<p>復興小公園との関係も保持し、建築的にも良好な状況にある。建築的には大きく変えずに、復興小公園との関係をよりつながりをもたせることが望ましい。フェンスを撤去するなど、公園と小学校の一体の利用が望まれる。現在、併設するスポーツ施設は多くの住民に利用されており、周辺には地区施設も点在することから、子育て関連など地域の拠点施設としての整備が考えられる。</p>
野本委員	<p>敷地は秋葉原と浅草橋に挟まれた商業集積地にあり、区の発展のためにも歴史的価値に配慮しつつ高度利用を図るべきだと思います。</p> <p>具体的には、税収増にもつながる企業の本社機能や商業施設の誘致をしたいところです。現在の柳北スポーツプラザの流れをくんで、民間企業の運営によるスポーツ施設が同居してもよいかと思います。</p>

旧柳北小学校・旧下谷小学校・旧坂本小学校に関する意見聴取

旧下谷小学校に関する委員意見

委員	意見
越澤委員長	<p>区が策定した「東上野四・五丁目地区まちづくりガイドライン（H28.3策定）」は当該地域に限定した検討であるため、このガイドラインを理由として早急に解体するとして、区が判断することがよいわけではない。</p> <p>その理由は次のように、この地区が、旧下谷区役所、現台東区役所が立地してきた、つまり、台東区全体のシビックセンター地区である歴史の重みに対する認識、考慮が必要であるからである。</p> <p>現庁舎は、昨年大規模改修を終えたばかりであるが、20～30年後には庁舎の建て替え時期が必ず来る。建て替えをする際に庁舎をどこに設置するかは区行政の最重要課題である。旧下谷小学校は、現庁舎の隣接地にあるため、現庁舎を使いながら、新庁舎を建設するために必要な庁舎建て替え時の移転候補地としての視点、検討が望まれる。</p> <p>そのため、区として庁舎建て替え時の庁舎用地確保について政策的に検討した後、保存または解体の活用方法を判断することが望まれる。その考え方が示されるまでの期間は、校舎を暫定で活用することが望ましい。</p>
吉川副委員長	<p>当該敷地は、上野駅近隣という交通至便地かつ当区のシビックセンターに位置し、隣接公園が存在しないことが特徴である。一般的には可能な限り既存建物を活用することが望ましいが、シビックセンターを適切に形成する過程で、やむを得ない場合には除却も選択肢となり得ると思料される。除却する場合には、例えば、既存建物の一部保存やその雰囲気を活かした建物を新築する、小学校としての記念物を保存して展示するコーナーを設ける等、都市としての記憶を継承する措置を講じることが望まれる。</p>
元倉委員	<p>この地区（東上野四・五丁目地区）は、台東区の公共施設が集まる拠点地域であるし、文化施設を加えた再開発が行なわれる可能性の高い。その時ここが建替え用敷地として有用なことは理解できる。</p> <p>しかし、この地区を台東区の顔として、さらに将来を上野公園との関連をもった文化的な一拠点とするためには、全てを新しくするのではなく、この小学校の歴史及び文化の価値を最大限にイノベートしていく方が将来に向けて価値を生むのではないか。それには多くの投資が必要であるが、新規に施設をつくるよりはるかに魅力的なものにできるメリットがある。</p> <p>校庭はオープンにし、区役所と一対になった地区の広場としてデザインし直す。アトリウム風に屋根を架けてしまうことも考えられる。</p> <p>案としては、台東区美術館、演劇ホール（体育館を建て直す）、ギャラリー、インフォメーションセンター、ステキなカフェやレストランなど、いずれも台東区の顔となるような思い切った企画と改修が必要。</p>

委員	意見
山家委員	<p>エントランス、階段まわりは意匠的に残すべき価値があると思われる。また、教室と廊下についても面影を残している。学校は廊下と教室が一体となって「学校らしさ」をもつのであり、改変が見られる事例が多い中、その雰囲気留着しているのは貴重である。区役所と隣り合い、駅にも近い都心立地である。歴史的建造物と高層ビルが対となった施設のあり方を参照してはどうか。（かつての赤坂プリンスホテルの旧館と新館、東京駅と周辺高層ビルとの関係など）用途としては行政使用が望ましい。</p>
野本委員	<p>区役所と隣接した立地等を考えると、歴史的価値への配慮を図りつつ、高度利用も含めた検討が必要と思われます。区役所と一体的活用・整備を図るべきと思います。イメージとしては、シティーセンター（仮）のようなものです。</p> <p>具体的には、区役所のほかに、震災時などの区民支援センター機能、区民が集うための集会機能を持った小ホール、病院機能、あるいはコンベンションホールなどでしょうか。集約化により、効率的にもメリットは大きいところです。</p>

旧坂本小学校に関する委員意見

委員	意見
越澤委員長	<p>旧坂本小学校の正門左手に小学校の碑がある。このような碑や部材等は「地域文化の記憶継承」として重要であるが、これまでの区による保存への配慮は不十分であり反省すべき点である。</p> <p>区内復興小学校33校は様々な用途で活用されているが、旧坂本小学校を活用する際は、長期の定期借地方式はしないほうがよい。長期の定期借地をした場合、借地借家法により原則更地での返還となる。返還方法については、その時点の協議により調整は可能であるが、最終的には土地の払い下げが起きる事例が想定される。</p> <p>区が示す課題（耐震性・老朽化・避難所確保・都道への張り出し・狹隘道路拡幅による防災性向上）だけでは、旧坂本小学校を早急に壊す必要性として理由が弱い。区として旧坂本小学校の活用を決めるまで、暫定利用を続け改修をしながら使用していくことが望ましい。（壊すことはいつでもできるが、一度壊してしまうと元には戻せない。）</p> <p>活用をする際は、解体するのではなく校庭部分に増築するなどの方法等も検討できる。避難所の確保については、周囲のマンションと調整し活用することで対応できると思われる。その際は、旧坂本小学校の校庭を臨時の避難場所として活用すればよい。</p> <p>耐震性について国の基準を満たす必要はあるが、活用用途によりどの程度の安全性を考慮（強度をあげる）するかは異なると考えられる。例えば、常時利用者がいる保育園と人がまばらに訪れる美術館などでの活用では、「改修度合と安全性の考え方」に検討を要する。</p> <p>トイレ部分は改修し、民間のトイレ業者（TOTO・LIXIL 等）の「最新トイレのショールーム」的な利用の仕方も想定される。</p>
吉川副委員長	<p>当該敷地は、駅近隣に位置し、隣接公園が存在せず、また区画整理区域外であるために周囲の都市基盤が比較的脆弱であることが特徴である。一般的には可能な限り既存建物を活用することが望ましく、また周辺の都市基盤の整備過程では必ずしも当該建物の除却は必須とは言えない。しかし、立地優位性を活かした敷地高度利用を図りつつ、防災拠点としての機能発揮を含めて地域の都市基盤を整備する過程で、やむを得ない場合には除却も選択肢となり得ると思料される。除却する場合には、例えば、既存建物の一部保存やその雰囲気を活かした建物を新築する、小学校としての記念物を保存して展示するコーナーを設ける等、都市としての記憶を継承する措置を講じることが望まれる。</p>
元倉委員	<p>道路の狭い密集地だから、防災的な意味でも残したい。北側隣地を合わせて言問通裏との間を外部ピロティにして、校庭を言問通りと直接つながった広場としてデザインし直す。周囲の塀は全て取り去ることで周辺の環境を良くすることができる。言問通の歩道の問題も豊かな歩行者空間に変えられる。鬼子母神側との空間的な連続性もできるのではないかな。</p> <p>上野公園との関連をもった文化施設として思い切ったイノベーションする。</p> <p>彫刻美術館 演劇センター ダンスボックス 映像センター（藝大？）第2デザイナーズビレッジなど。</p>

委員	意見
山家委員	<p>エントランス、講堂、階段室は意匠的に残すべき価値があると思われる。厳密には復興小学校にはあたらないが、講堂と便所のあり方など、復興小学校の空間的特徴をよく備えている。解体前提ではなく、「検討課題」をクリアすることを目的としたプロポーザルとすべきである。「学校らしい」意匠の継承を考えると全体保存、あるいは多くのボリュームの一部保存が望まれる。地域利用のみならず、広域的な利用も考えられる立地であり、地域の避難拠点に加えてゲストハウスへの転用も考えられる。</p>
野本委員	<p>国立西洋美術館が世界遺産に選ばれたこともあり、台東区はこれから芸術・文化の中心都市として全国各地や国際的にも売り込みたいところです。</p> <p>具体的には、上野公園内の美術館・博物館、あるいは東京芸術大学と連携を図り、一部意匠を残しながら整備をしたらどうでしょうか。ランチ機能を持つのもよいかと思います。旧小島小学校でスタートした「デザイナーズビレッジ」を、ここで引き継いでもよいかと思います。</p>